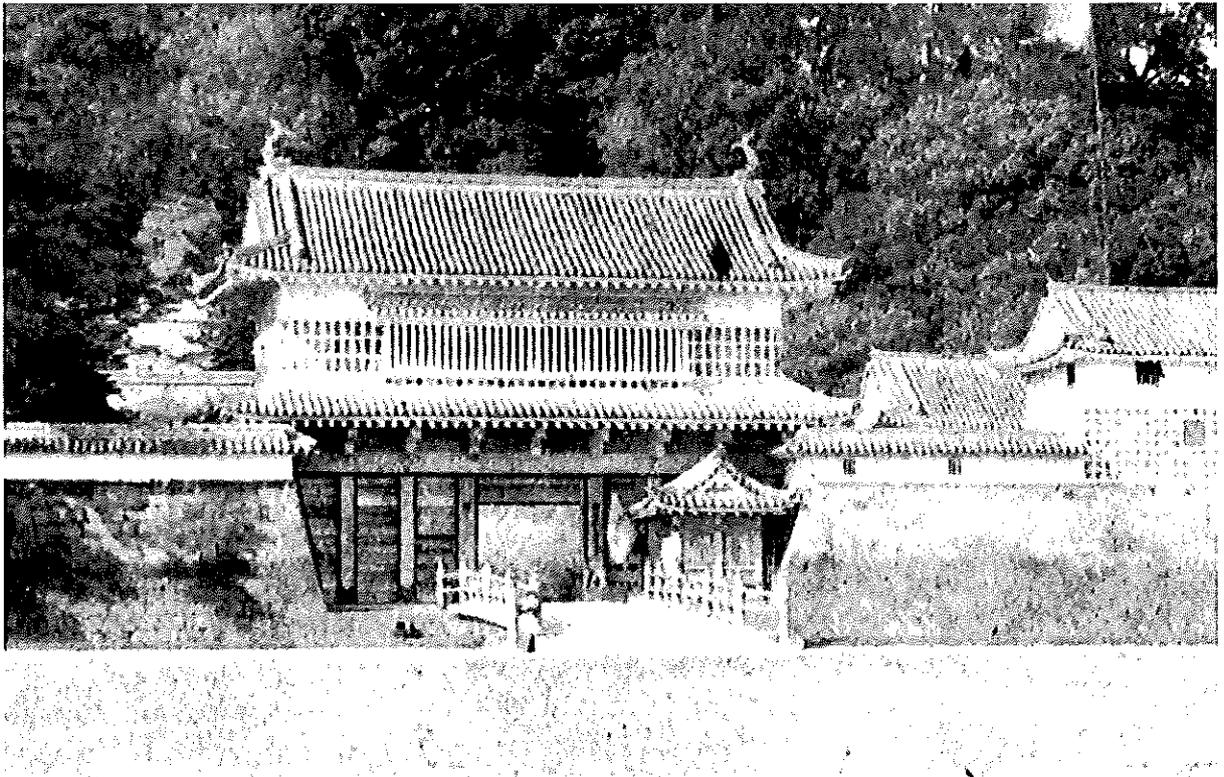


鹿児島城（鶴丸城）“御楼門（城門）”復元に向けた方向性の提言



“御楼門”復元検討委員会

平成 25 年 4 月

鹿児島城（鶴丸城）“御楼門（城門）”復元に向けた方向性の提言

“御楼門”復元検討委員会
委員長 玉川 文生

平成 24 年 9 月 7 日、鹿児島経済同友会地域活性化委員会が「“御楼門”復元に向けての産学官連携による検討会設置」を提言した。これを受けて、“御楼門”復元検討委員会が組織され、平成 25 年 3 月までに 6 回の委員会を開催し、復元に向けてその意義、技術的検証、建築費用、募金活動（寄付）・事業主体のあり方等について検討を重ねてきた。そこで、これまでの検討結果を踏まえ、以下の通り“御楼門”復元に向けた方向性について提言する。

1. “御楼門”復元の意義

「鹿児島は城下町であるが、実際鹿児島を訪れると、それがあまり感じられない」と多くの観光客から感想が寄せられている。

平成 18 年（2006 年）4 月 6 日、日本 100 名城に選定された鹿児島城（鶴丸城）は、慶長 6 年（1601 年）に島津家第 18 代当主家久が建設に着手した島津氏の居城で、本丸・二の丸、下屋敷が並び、天守閣や層楼のない屋形づくりであった。これは、「城をもって守りと成さず、人をもって城と成す」という薩摩藩流の思想によるもので、島津氏は中世式の山城を領内各地に残し、最終的には 113 区域をそれぞれ藩士に守らせる外城制度（参考資料 1 参照）を敷いていた。

本丸の大手門が御楼門で、北へ向かって 2 階建ての御兵具所(多聞櫓)が続き、一方南には隅櫓があった。とりわけ御楼門は、いかにも武の国・薩摩を象徴するような威風堂々のたたずまいで、城山を背景に建つ姿は、薩摩の国の特徴的な風景を創り出し、城下町として発展してきた薩摩藩の一つのシンボルであったと考えられる。御楼門は明治 6 年（1873 年）の火災で居館とともに焼失し、以後、再建された記録は残されていない。

御楼門（城門）は、当時の国（藩）の風格を示す目安である。江戸時代には国の格付けがされていて、島津氏は加賀の前田氏と並ぶ大大名であった。但し、国の格付けは形では表せない。目に見える形の構造物は天守と城門であるが、天守が残っているのは 21 箇所ぐらいで、ほとんど造り物であるため、城門がその国の風格を表す一番の顔であると考えられる。

御楼門復元の意義は、都市の風格を高め、城下町鹿児島の再興のシンボルとすることにある。また、その波及効果として、①回遊性の向上と歴史・文化ゾーンの充実、②景観まちづくりへの寄与、③歴史的建造物復元技術の継承、④学習の場としての活用、⑤新たな観光スポットの創造、⑥木材の地材地建の促進等が期待される。さらに、平成 27 年（2015 年）本県を舞台として開催される第 30 回国民文化祭や平成 30 年（2018 年）の明治維新 150 周年に向けて、かけがえのない地域資源の価値を再認識し、今後の発展的な文化芸術活動につながる一つの契機になるものと考えられる。

2. 技術的検証

平成24年(2012年)3月、公益社団法人鹿児島県建築士会がまとめた「鹿児島(鶴丸)城跡『御楼門』復元調査研究報告書」によると、明治初期に撮影されたとされる写真史料から『御楼門』建築の全体像が明らかになっている(参考資料2、3参照)。

『御楼門』の形式は、二重二層の武家門で、門の規模は五間一戸、両脇戸(潜戸)付き、上層(2階)の屋根は本瓦葺の入母屋、下層(1階)は四方葺き降ろし屋根で、上層(2階)正面には連子窓(格子窓)を出し、上層(2階)の外壁仕上は上部漆喰塗、下部は芋目地の海鼠(なまこ)壁であることが確認されている。

また、御楼門の規模(大きさや高さ)については、往時を偲ばせる礎石遺構がほぼ完全な形で残されており、その礎石の実測結果から、主柱の寸法は、91cm(約3尺)×73cm(約2尺4寸)脇柱は73cm角で、寄掛柱はやや小さく73cm×54cmである。特に主柱の幅3尺は熊本城「南大手門」や佐賀城「鯨の門」のそれを遥かに凌駕し、二条城東大手門にも迫る大きさである。

同報告書では、類似例と復元事例、文献資料(史料)、古写真などを参考にし、完全に保存されていた柱礎石遺構の寸法と位置関係の調査から、城門の規模と形式、基本的部材の寸法と柱間等を把握し、さらに平面形、構造方式、外観、屋根の形式、壁面の仕上げ、連子窓、大扉周りの意匠などについて考察を行い、結果として建築学的に極めて自然で合理的な「『御楼門』復元図」を描くことができ、それに基づく建築は可能であるとしている。

なお、復元する御楼門については、原形を再現する建築物とし、建築基準法の適用を受けない指定建築物(保存建築物)に該当するものとして法的手続きを進めることが望ましいと考えられる。よって、2階部分の活用のあり方については、今後の課題として検討するものとする。

3. 予想される建築費用

御楼門復元に係る建築費用については、平成14年(2002年)10月完成した熊本城南大手門の概算建設費6.1億円も参考にしながら、公益社団法人鹿児島県建築士会で試算した。

同建築士会では、「『御楼門』復元図」を基に、種々の前提条件を設けて復元整備に係る工事費を試算した結果、直接工事費が約6億円、共通仮設費、現場管理費、一般管理費、消費税等で約1.5億円の計7.5億円となっている。但し、物価変動、工期、消費税率、並びに基礎工事や耐震性能の向上及び関連付帯設備、木材等材料調達方法によって金額は変動するとしている。なお、上記金額には、調査、設計、工事監理費等各諸手続費等に係る付帯事務費は含まれていない。

4. 募金活動(寄付)のあり方

建築費用7.5億円の2分の1以上を民間(経済界と個人)で負担するものとする。具体的な募金活動(寄付)については、平成23年6月総務省統計局発表の平成21年経済センサス基礎調査結果に基づく県内の法人(会社形式)36,570事業所の1割強にあたる4,000事業所を目安として、1事業所当たり3年間で10万円以上を目標額とし、合計で約4億円と設定する。

また、県民、本県出身の県外在住者、本県とご縁のある方々等からの寄付金の目標額を5千万円とし、総額で4億5千万円を目標とする。

なお、募金活動にあたっては、直接寄付金を募るだけではなく、県内の製造業者や小売店等と連携して寄付付き商品を販売し、購買行動を通して募金活動に参加してもらう仕掛けづくりなども必要であろう。

5. 募金主体と建設主体について

御楼門復元に関する募金主体については、御楼門復元の意義、県内事業所や県民の復元に向けた機運醸成のため、民間主導で実行委員会を立ち上げ活動を行うこととする。

ただし、募金活動における信頼性と透明性の確保や寄付行為に対する優遇税制の措置などの観点から、行政に募金口座を設け募金活動を行うことが望ましいと考えられる。

建設主体については、史跡内での復元であるため関連法令や各種補助金等、民間では不明な部分が多いため行政に担っていただきたいと考えている。

なお、御楼門復元の意義でみたように、御楼門は明治維新を成し遂げた薩摩藩のシンボルであり、かつ当時の薩摩藩の領国統治システムであった外城制度に基づく領内113の城と城下町のシンボルであるため、復元にあたっては鹿児島県・鹿児島市と県内自治体間の連携も重要なポイントとなろう。(他県の取り組み事例：参考資料4参照)。

6. 議論を終えて

鹿児島(鶴丸)城跡は、第七高等学校造士館、鹿児島大学医学部等が置かれるなど本県にとって由緒ある場所となっており、これまでも御楼門復元に向けた動きがあった。

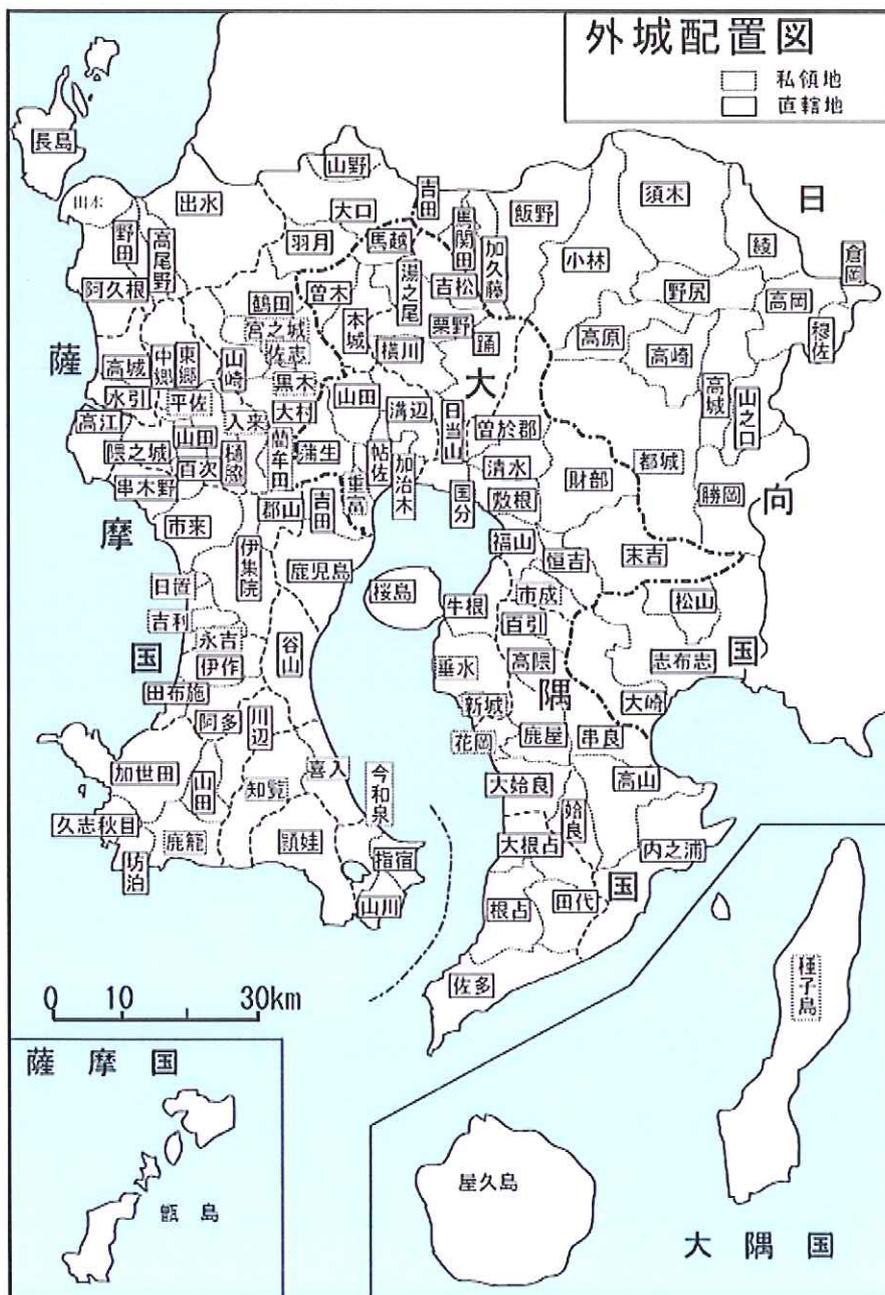
今回、改めて御楼門復元に向けて、経済5団体をはじめ、学識経験者、オブザーバーとして県、鹿児島市も参加した産学官連携による検討委員会を組織し、これまで6回にわたり真剣に議論を重ねてきた。

今回の提言は、民間が主導する新たな官民連携の事業のあり方を示すものであり、これまでの行政に対する一方的な陳情活動とは一線を画するものである。県・市の行政におかれましては、今回の提言を真摯に受け止めていただきたいと考えている。

今回の提言に基づいて御楼門復元の事業に着手することができれば、県内において共助・連携の機運が醸成されることが期待できる。そして、県内各地に眠っている文化的資産や観光スポットの掘り起こしに、今回と同じように民間が主導する形で、官民一体となった取り組みが拡大し、地域の新たな魅力づくり、ひいては県内全域の活性化につながることにできれば幸いである。

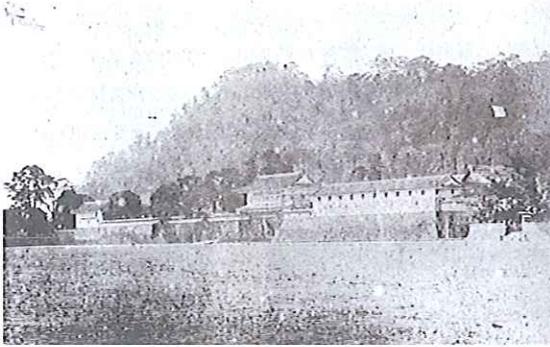
1. 外城制度

薩摩藩の領国統治システム。薩摩藩の4人の1人は武士階級であったため、他藩のように武士を城下町に集住させることが不可能であった。そこで、琉球や大部分の離島を除いた藩内を113の外城に分割し、それぞれに武士を配置させて地方行政・防衛を行わせた。外城の支配者は代々相続される私領主と数年で代わる地頭とに分けられる。江戸中期以降、多くの私領主・地頭が鹿児島城下で生活しており、あまり外城を訪れることはなくなった。外城は1~数10ヶ村からなり、中核となる村に領主の仮屋が置かれた。外城に住む武士たちは半農半士で「外城衆中」と呼ばれた。その多くが仮屋を中心とした麓と呼ばれる武士集落で暮らしていた。その景観がよく残っているのが知覧・出水・入来などである。



資料：尚古集成館 HP

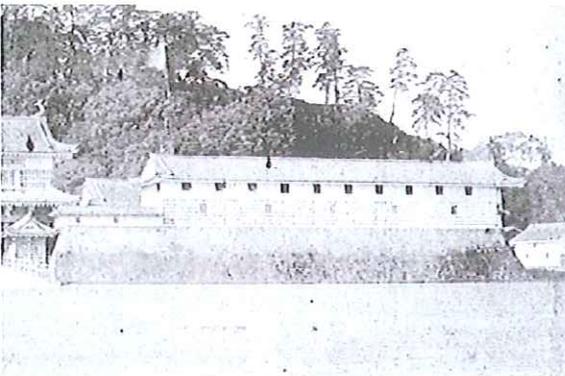
2. 御楼門の写真史料と礎石の実測調査



鹿児島城（鶴丸城）全景



「御角屋蔵」（おすみやぐら）



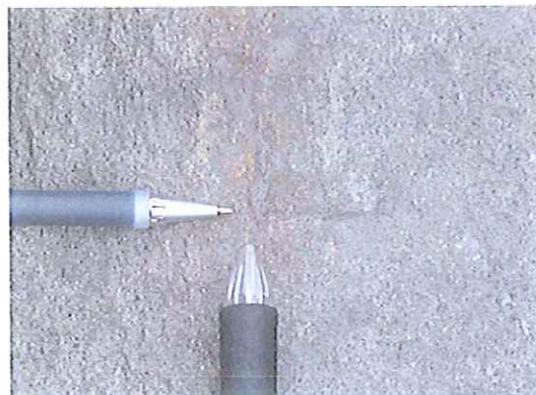
「御兵具所」多間櫓



鹿児島城（鶴丸城）「御楼門」



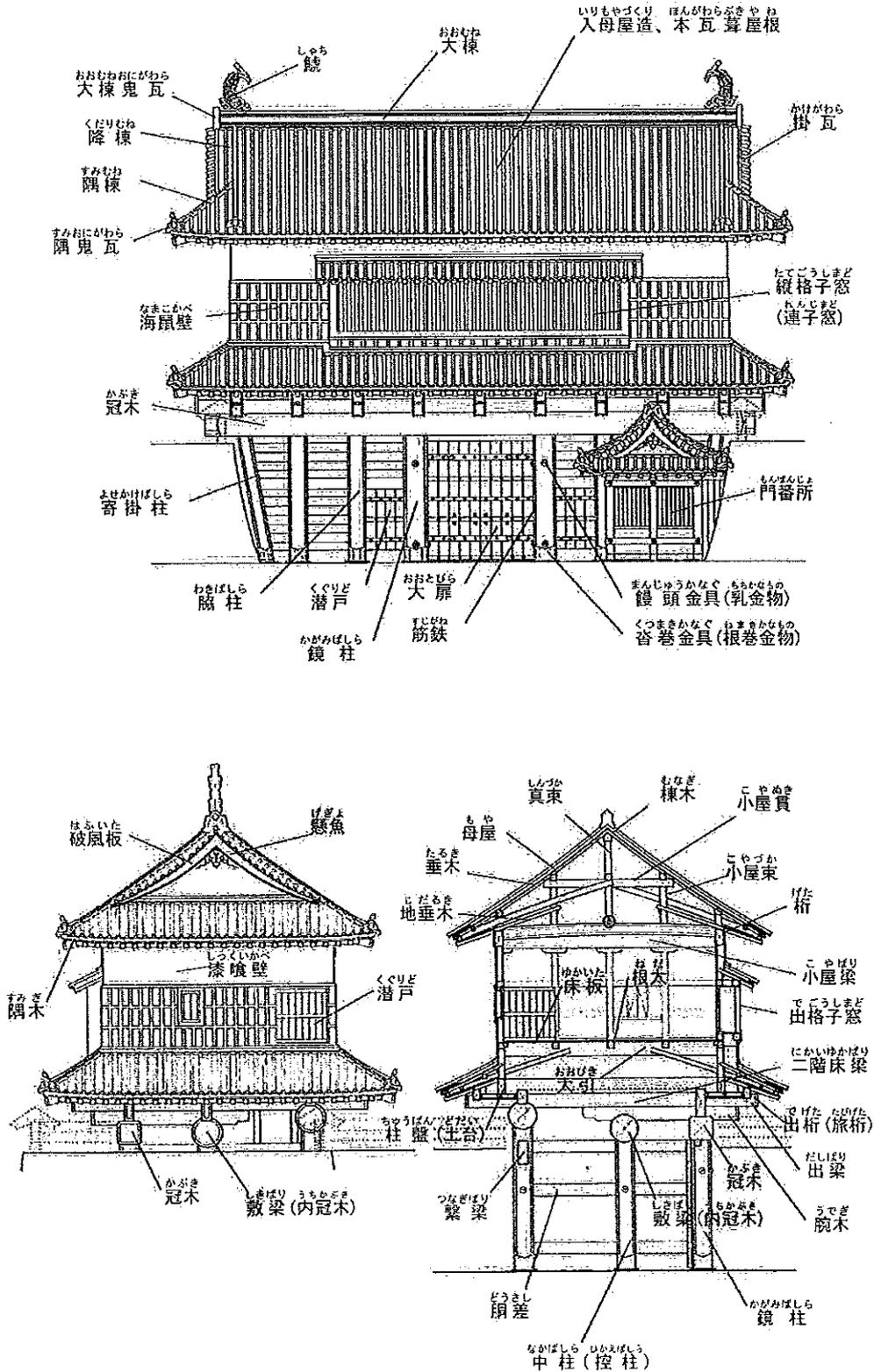
測定状況



柱痕の残る礎石

資料：「鹿児島（鶴丸）城跡『御楼門』復元調査研究報告書」（平成 24 年 3 月）

3. 御楼門の各部の名称



資料：「鹿児島(鶴丸)城跡『御楼門』復元調査研究報告書」(平成 24 年 3 月)

4. 城跡復元事例

	熊本城（熊本県熊本市）	名古屋城（愛知県名古屋市）
事業主体	熊本市	名古屋市
復元基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ①歴史的建造物の復元と保存 ②都市の潤い空間としての環境整備 ③サービス空間の創出 	<ul style="list-style-type: none"> ・本丸御殿の歴史的意義を踏まえ、消失前と同等の文化的価値を有するとともに広く市民が活用でき、世界的な市民の財産となるように、工期を3期10年（H18～）で総事業費約150億円をかけて本丸御殿を復元する。
機運を盛り上げるイベント	<ul style="list-style-type: none"> ①夜の熊本城ライトアップ ②大丸御殿フォトギャラリー ③肥後朝顔展 	<ul style="list-style-type: none"> ○募金リーフレットを以下に設置 ・市内16区役所、金山駅の観光案内所、名古屋駅の観光案内所、オアシス21アイセンター
寄付金の募集方法	<p>窓口：熊本市文化交流局 熊本城復元募金 新「一口城主」募集</p> <ul style="list-style-type: none"> ①募集期間：H21.1.1～H29.12.31 ②目標額：7億円 ③募集対象 <ul style="list-style-type: none"> ・国内外の個人、法人、団体 ・寄付された方全員永代帳に記載し、永久保存 ④特徴 <ul style="list-style-type: none"> ○一口城主 <ul style="list-style-type: none"> ・1万円以上の寄付＝城主証・芳名番名板に記載し天守閣に掲示 ○記念城主証 <ul style="list-style-type: none"> ・誕生、入学、卒業、結婚等の記念日で発行も可 ○城主手形の発行 ○感謝状 <ul style="list-style-type: none"> ・一口10万円以上寄付の方 ○寄付の優遇措置 <ul style="list-style-type: none"> ・法人は損金算入、所得税寄付金控除、住民税の寄付金税額控除対象 	<p>窓口：名古屋市市民経済局名古屋城総合事務所 「名古屋城本丸御殿積立基金」の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ①募金の種類 <ul style="list-style-type: none"> ・御殿募金：1,000円／口 ・柿募金：3,000円／口 ・匠募金：10,000円／口 ・檜募金：50,000円／口 ②特徴 <ul style="list-style-type: none"> ・芳名板に住所氏名記載 ・入学、卒業、結婚等の記念証発行 ・団体やグループでの檜募金は募金者を永代帳に記入し、永久保存 ・税制上の優遇措置有り

資料：城跡復元資料と復元事業担当者へのヒアリング調査による。

“御楼門”復元検討委員会 名簿

<敬称略・順不同>

<委員>

		組 織	役職	氏 名
1	産	鹿児島経済同友会	代表幹事	玉 川 文 生
2		// 地域活性化委員会	委員長	藤 安 秀 一
3		// 地域活性化委員会	副委員長	米 盛 直 樹
4		鹿児島商工会議所	副会頭	島 津 公 保
5		鹿児島県経営者協会地域活性化委員会	運営委員	門 田 晶 子
6		鹿児島県中小企業団体中央会	副会長	下 園 廣 一
7		鹿児島県商工会連合会	会長	森 義 久
8		鹿児島青年会議所	理事長	小 牧 正 英
9	学	鹿児島県立短期大学	教授	揚 村 固
10		志学館大学人間関係学部	教授	原 口 泉
11		尚古集成館	館長	田 村 省 三
12	その他	鹿児島県建築士会	会長	守 真 和 弘
13		鶴丸城城門を復元する会	代表世話人	中 原 國 男

<オブザーバー>

		組 織	役職	氏 名
1	産	鹿児島経済同友会	代表幹事	永 田 文 治
2		鹿児島商工会議所	会頭	諏 訪 秀 治
3		鹿児島県経営者協会	会長	永 山 在 紀
4		鹿児島県中小企業団体中央会	会長	小 正 芳 史
5	官	鹿児島県 生活・文化課	課長	福 本 達 郎
6		鹿児島市 観光企画課	課長	山 口 順 一
7		鹿児島市 文化課	課長	児 玉 哲 朗

“御楼門”復元検討委員会 開催概要

第1回 委員会

日時 平成24年10月31日(水) 13時～

場所 ホテル・レクストン鹿児島

<内容>

1. 開会 鹿児島経済同友会 永田代表幹事挨拶
委員紹介
委員長選出
2. 議題 ①委員会の規則(案)について
 - ・副委員長について
 - ・ワーキンググループ(案)について②今後の取組みについて
 - ・次回委員会の検討事項
 - ・委員会開催日程について～毎月1回開催③その他

(委員出席者名) 玉川、藤安、下園、島津、森、田所(代理)、米盛、
揚村、田村、守真、中原、渡(代理)

(オブザーバー出席者名) 永田、福本、戸床(代理)、二宮(代理)

第2回 委員会

日時 平成24年11月28日(水) 13時30分～15時

場所 ホテル・レクストン鹿児島 2階 フリージア

<内容>

- 議題 ①第1回ワーキンググループ会議の報告について
②「復元に向けた技術的検証について」～揚村委員
③その他

(委員出席者名) 玉川、藤安、下園、島津、門田、米盛、
揚村、田村、守真、中原、

(オブザーバー出席者名) 永田、福本、山口、児玉

第3回 委員会

日時 平成24年12月18日(火) 13時30分～

場所 ホテル・レクストン鹿児島

<内容>

- 議題 ①第2回ワーキンググループの検討結果～WG議長報告
②技術面の予算金額 ・根拠 ・課題 ・意見交換
③募金活動について ・他県の取組み ・経済界、民間の取組み

(委員出席者名) 玉川、藤安、下園、三宅(代理)、濱之上(代理)、
米盛、門田、揚村、田村、守真、渡(代理)

(オブザーバー出席者名) 永田、福本、山口、児玉

(WGグループ出席者名) 東條

第4回 委員会

日 時 平成25年1月16日(水)13時30分から15時まで

場 所 ホテル・レクストン鹿児島 2階 フリージア

<内容>

議題 ①WG 会議報告の検討

②募金活動について

(委員出席者名) 玉川、藤安、三宅(代理)、永田(代理)、
濱之上(代理)、米盛、渡(代理)

原口、揚村、田村、守真、中原

(オブザーバー出席者名) 永田、福本、児玉

(WGグループ出席者名) 東條

第5回 委員会

日 時 平成25年2月12日(火)13時30分から15時まで

場 所 ホテル・レクストン鹿児島 2階 フリージア

<内容>

議題 ①WG 会議報告の検討

②目標寄付額について

③実施事業団体について

(委員出席者名) 玉川、藤安、下園、島津、濱之上(代理)、門田、
米盛、渡(代理)揚村、田村、守真、中原

(オブザーバー出席者名) 永田、福本、児玉、山口

(WGグループ出席者名) 東條

第6回 委員会

日 時 平成25年3月15日(金)13時30分から15時まで

場 所 ホテル・レクストン鹿児島 2階 フリージア

<内容>

1. 開会

2. 議題 ①WG 会議報告の検討

②提言書案について

③CG 完成状況

(委員出席者名) 玉川、藤安、下園、竹元(代理)、濱之上(代理)、門田
米盛、原口、揚村、田村、守真、中原

(オブザーバー出席者名) 永田、福本、児玉

(WGグループ出席者名) 東條、藤田

“御楼門”復元検討委員会 ワーキンググループ 名簿

<敬称略・順不同>

		組 織	役職	氏 名
1	産	鹿児島経済同友会地域活性化委員会	副委員長	米 盛 直 樹
2		鹿児島商工会議所	企画産業部長	三 宅 正 敏
3	学	鹿児島県立短期大学	教授	揚 村 固
4	その他	鹿児島県建築士会	副会長	東 條 正 博
5		鹿児島県建築士会鶴丸城等史跡建造物研究委員会	委員長	田 代 昌 弘
6		鹿児島経済研究所	主席研究員	藤 田 聖 二

“御楼門”復元検討委員会 ワーキンググループ開催概要

第1回 会議

日 時 平成24年11月8日(水) 14時～

場 所 鹿児島ビル8階会議室

<内容>

議題 ①議長選出

②第1回“御楼門”復元検討委員会の会議内容の説明

③その他

(出席者名) 東條、揚村、田代、米盛、三宅、藤田

第2回 会議

日 時 平成24年12月3日(月) 14時～

場 所 鹿児島ビル8階会議室

<内容>

議題 ①第2回“御楼門”復元検討委員会の会議内容の説明

②予算額について

- ・建築予算～建築士会の図面資料での具体的な建築予算額
建築予算額の変動要因等

③補助金制度について

- ・行政との打合せ会

④寄付金活動について

- ・募集期間 ・目標金額 ・具体的な活動

⑤その他

(出席者名) 東條、揚村、田代、米盛、藤田、金田

第3回 会議

日 時 平成25年1月10日(木) 13時30分～

場 所 鹿児島ビル8階会議室

<内容>

議題 ①第3回“御楼門”復元検討委員会の会議内容の説明

②WG委員会より検討委員会への協議事項について

- ・寄付金
- ・楼門の工法について

③その他

(出席者名) 東條、揚村、田代、米盛、三宅、藤田

第4回 会議

日 時 平成25年2月7日(木) 13時30分～

場 所 鹿児島ビル8階会議室

<内容>

- 議題 ①第4回“御楼門”復元検討委員会の会議内容の説明
②寄付金について
③実施事業団体について
④その他

(出席者名) 東條、揚村、田代、米盛、藤安、藤田

第5回 会議

日 時 平成25年3月11日(月) 13時30分～

場 所 鹿児島ビル8階会議室

<内容>

- 議題 ①提言書案について
②その他

(出席者名) 東條、揚村、田代、米盛、三宅、藤田、永田

<本件に関するお問合せ先>

鹿児島経済同友会 担当：浦底、田島
鹿児島市名山町1-3 鹿児島ビル8階
TEL 099-222-4492 FAX 099-225-0402